

【選択科目】社会を生き抜く力を育てる金融・経済教育（A）

田村 徳至

1 講習の概要

昨年度に引き続き、「社会を生き抜く力を育てる金融・経済教育」と題しての教員免許状更新講習を平成29年7月8日に19名（小学校5名、中学校7名、高等学校6名、特別支援学校1名、退職者は退職時の勤務校籍、中高一貫校は中学校籍でそれぞれカウントした）の参会者を得て開講した。内容は社会科・公民科系ではあるが、受講された先生方の専門教科は国語・技術・英語・数学・保健体育など幅広い分野からの先生方が参加された。社会系が専門の先生は6人（全体の三分之一）であった。

本講習は、昨年度と同様にゲストティーチャーとして野村証券ホールディングスの酒井さんをお招きした（以下、野村HDと略す）。午前の3時間は田村が、子どもの金銭・経済感覚の育成に必要なこととして数字を見る力（把握力の育成・具体化力の育成・目標達成力）の重要性と金融経済に関わる基本的な内容を講義した。

例えば、把握力については、まず世の中の数字に関心を持つことが重要である。現在の日本の人口とGDPがどのくらいなのかが分かるだけでも、日本人労働者の平均給与を算出することができる。このような基本的な数字が分からないと物事を類推することができない。現在は分からないことがあってもネットで簡単に調べることができるが、まずは自分の頭で考えること、基本的な数値を把握しておくことの重要性について講義した。

また、金融経済教育の目的・定義について解説し、変化の激しい時代であるからこそ、お金に関わる知識を持ち人生のあらゆる局面での確かな判断をすることが重要であり、そのための金融リテラシーを持つことが重要であることを講義した。具体的には、債券、株式の配当、保険の購入に関する基本的な内容である。

特に、金融リテラシーの有無が資産格差を生むことにもなりかねないこと（例：住宅ローンの借り換え）を具体的な資料を基に解説した。

午後は、約2時間にわたり野村証券HDと協働して講義・演習を行った。教材は、昨年度実施して参会者から好評であった「まなぼう教室」【株式編】を使用した。元々は小学生高学年～中学生向けのものであるが、それを中高生向け程度にアレンジした内容である。しかし、実際に子供たちに教える立場である教師が教材の内容を知らなければ実際の授業で活用されることはない。そこで、本教材の活用方法を学んで頂くべく本教材を使用した。

本教材を活用した講習プログラムは以下のような流れである。

①会社の役割と株式について説明

- ・自分の生活と会社とのかかわり、会社と株式について
- ・銀行から借りるお金と投資の違いを説明し、株式のしくみへの興味・関心を高める

②企画会議

- ・3～4人のグループをつくり、自分たちで会社を立ち上げる
- *どの会社かはこちらで用意した資料の中から決める。
- ・どの業種か、なぜその業種にしたか、その会社はどのようなことで社会貢献をするのかななどをグループ内で話し合っ決めて決める。
- *子どもたちがすぐに取り組めるように、ヒントシートがある。

③株主総会開催

- ・各グループの代表者が、自分たちの企画を発表する。
- ・各自、どの会社（グループ）を応援したいか投票する。

講習のやり方は、一方的な講義形式のみではなく、特に午後は受講した先生方同士で考えるグループワークを主体としたものとした。さらに、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業の模擬体験をすることができ、できるだけ先生方が明日からの授業で活用することができるものとした。

新学習指導要領（小・中学校は平成29年3月告示・高等学校は平成30年2月告示）の中には、「主体的・対話的で深い学び」が重視されている。本講習の内容は受講された先生自身が「主体的・対話的で深い学び」をしたことと感じている。

2 本講習の成果と今後の課題

①本講習の成果（本講習に対する評価）

7月に受講した先生方（計19名）のアンケート結果は、下記のとおりである。

	本講習の内容・方法についての総合的な評価	本講習を受講した最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価	本講習の運営面（受講者数・会場・連絡等）についての評価	全体平均
今年度	3.5	3.2	3.3	3.3
昨年度	3.5	3.1	3.2	3.2

各項目は、よい4点、だいたいよい3点、あまり十分ではない2点、不十分1点の4点法で計算した。

事後アンケートの平均得点からすると、本年度の本講習内容は昨年度と比較すると内容面における総合評価以外は得点が向上している。特に、最新の知識に関しては、資料に最新のデータを取り上げたことが起因していると考ええる。また、成果の一つとしてあげられることとして、社会科系の内容であるにもかかわらず、今年度も社会科系科目を専門としない先生方の受講が大半を占めたということである。受講後の自由記述では「学校の授業でも扱える教材・資料をいただけただこと、講義・演習による知識・経験の獲得に加え、良いお土産になりうれしいです。」というものがあつた。現場の先生方の授業づくりの参考になったと実感している。

これらのことから、本講習内容が受講した先生方の期待に一定の期待に応えることができたと考ええる。

反面、教師の課題意識を反映していたかどうかについては、あまり十分ではない1名（昨年度は不十分1名、あまり十分ではない1名）であつた。本講習が教職への意欲喚起・新たな取り組みの契機になったかについては不十分が1名・あまり十分ではない3名（昨年度は不十分が3名）という結果になつた。

大半の先生方からは高評価していただくことができたが、昨年度と同様に少数ではあるが不十分・あまり十分ではないと評価する先生がいたことは来年度の講習内容の検討課題である。

来年度も野村HDさんにゲストティーチャーを依頼している。講習内容としては、小学校の先生向けとして【為替編】、中学校の先生向けとして【投資】、高等学校の先生向けとして【自分の将来とお金】に関することを取り入れようと考えている。特に今年度は、高等学校の先生の中には、簡単な金利の計算ができない生徒が多く、すでに消費者金融からお金を借りている生徒もいるから何とかしたと考えてこの講座を受講したという先生がいたことから、金利に関わる内容についても今回は取り入れた。他の講習と同様に受講される先生が小学校～高等学校、特別支援学校と幅広いだけに、全受講生のニーズをカバーすることは困難を伴うが、できるだけ子供たちの幸せにつながるような講習にしたいと考えている。

本講習の内容が長野県の多くの子どもたちの金融・経済教育発展の一助となれば幸いである。